

一歩ずつ

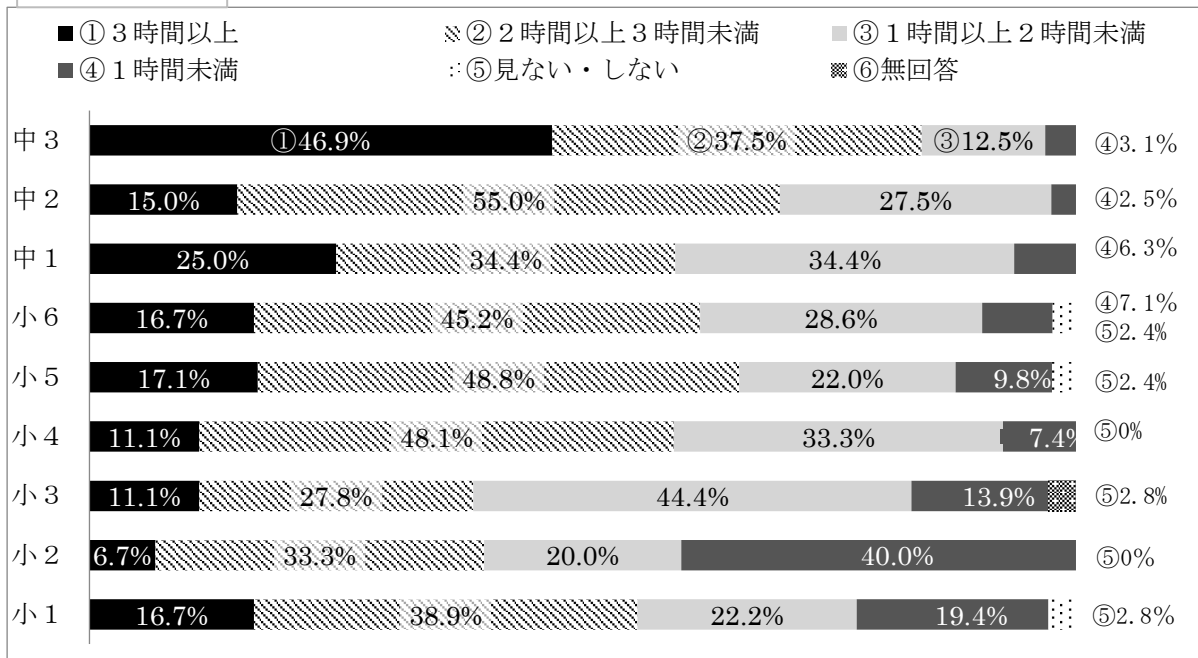
むかわ町
教育推進委員会
アンケート特集号

今回の「一歩ずつ」では、7月に行った「生活実態アンケート調査」の分析結果をお知らせします。本紙を参考に、お子さんの学力向上につながる望ましい生活習慣等の定着につながれば幸いに存じます。今年度も生活実態アンケートにたくさんのご協力いただき、誠にありがとうございました。(回収率70%)

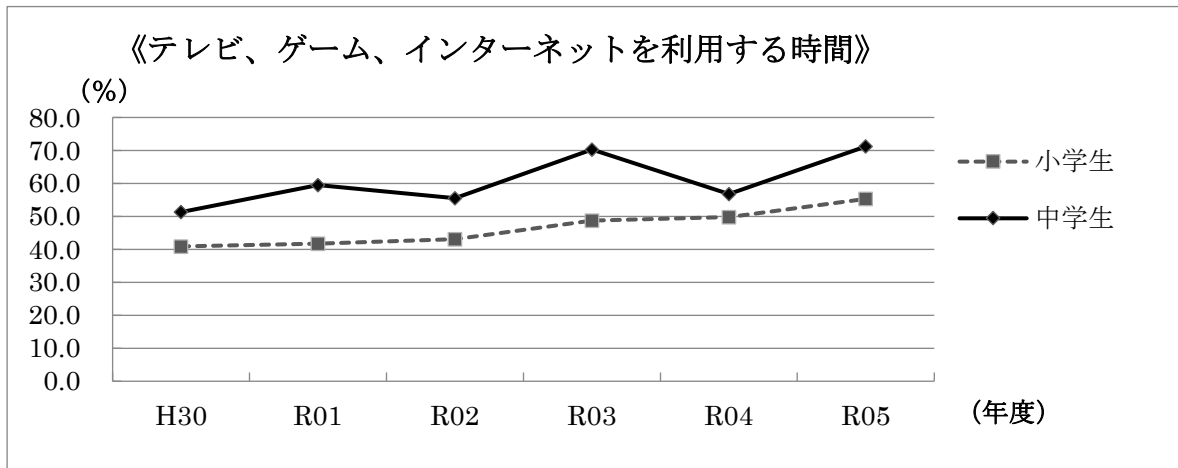
問1 学校から帰って来てからの1日の過ごし方(平日)について
～テレビ、テレビゲーム(コンピュータゲーム・携帯式ゲーム・携帯電話やスマホを使ったゲームなど)、インターネットをする時間(学習のための使用時間は除く)～

1. 3時間以上
2. 2時間以上3時間未満
3. 1時間以上2時間未満
4. 1時間未満
5. 見ない・しない

全体の傾向



<平日の1日、2時間以上見る、する割合について>

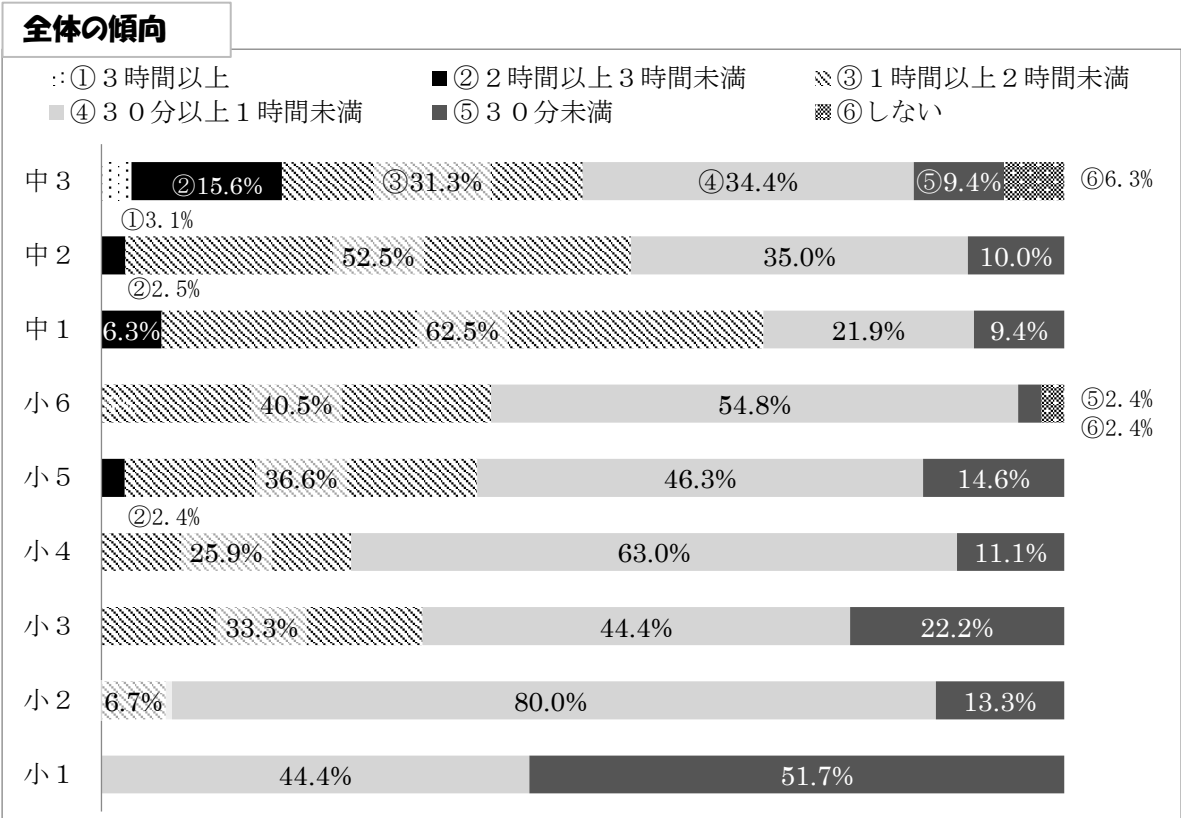


【時間の目安】
学習以外の電子メディア
一日 二時間以内

【今年度の傾向】
過去6年間を比較しますと、小中学生ともテレビ、ゲーム等の利用時間は緩やかに増加し、今年度は小中学生とも過去最大値でした。これは携帯電話の所持率とリンクしており、携帯電話（スマートフォン）の所持の増加により、それを利用したゲーム・ネット等の利用時間が増加していると考えられます。この傾向は今後も継続していくことが予想されます。この設問では、「学習の時間以外」としていますが、学習にもネット等を活用するなど、子供たちの生活スタイルは以前と比べ大きく変化しており、今後新たな利用の仕方・ルールを確立することが大切となります。

問2 学校から帰って来てからの1日の過ごし方（平日）について
～学習の時間について（学習塾・インターネットによる学習を含む）～

1. 3時間以上
2. 2時間以上3時間未満
3. 1時間以上2時間未満
4. 30分以上1時間未満
5. 30分未満
6. しない



【小学生】 ※平成30年度からの変化を4年生から6年生の合計で比べました。(単位-%)

	H30	R01	R02	R03	R04	R05	平均
3時間以上	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.1
2～3時間未満	2.0	4.5	2.2	4.2	5.0	0.9	3.1
1～2時間未満	25.8	33.3	34.8	37.9	32.5	35.5	33.3
30分～1時間未満	49.7	48.1	48.6	44.8	51.1	53.6	49.3
30分未満	19.2	12.2	9.4	11.7	10.6	9.1	12.0
しない	0.0	1.3	4.3	0.7	0.7	0.9	1.3
無回答	3.3	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.7

【中学生】

	H30	R01	R02	R03	R04	R05	平均
3時間以上	0.0	3.1	1.8	1.4	6.2	1.0	2.3
2～3時間未満	7.1	9.8	17.7	13.5	12.3	7.7	11.4
1～2時間未満	40.4	43.6	40.2	38.5	44.5	49.0	42.7
30分～1時間未満	40.4	23.9	23.2	27.0	26.0	30.8	28.6
30分未満	10.9	13.5	8.5	14.9	8.2	9.6	10.9
しない	0.6	5.5	6.1	4.0	2.7	1.9	3.5
無回答	0.6	0.6	2.3	0.7	0.7	0.0	0.8

家庭学習
時間の目安
学年×10分+10分

小1	20分
小2	30分
小3	40分
小4	50分
小5	60分
小6	70分
中1	80分
中2	90分
中3	100分

【今年度の傾向】

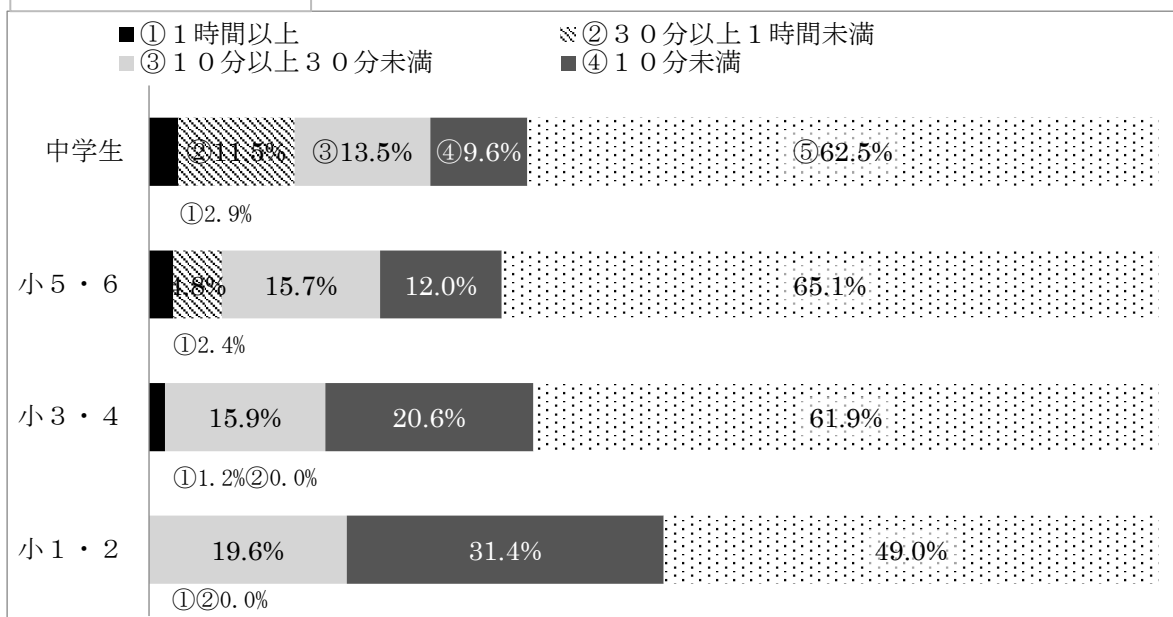
小学校 4～6 学年の合計で分析すると、「30 分未満」「しない」の割合は減少してきており、子供たちの家庭学習の習慣がより定着してきていると考えられます。しかし、「30 分～1 時間未満」がどの学年でも一番多く、今後の改善が望まれます。

中学校 1 時間以上取り組んでいる割合では、令和元年度より 56.5% → 59.7% → 53.4% → 63.0% → 57.7% と大きな変化はありません。また、「30 分未満」は減少傾向ですが、一方で家庭学習を全くしない生徒は小学生児童より割合が高く、一定数いることがわかります。

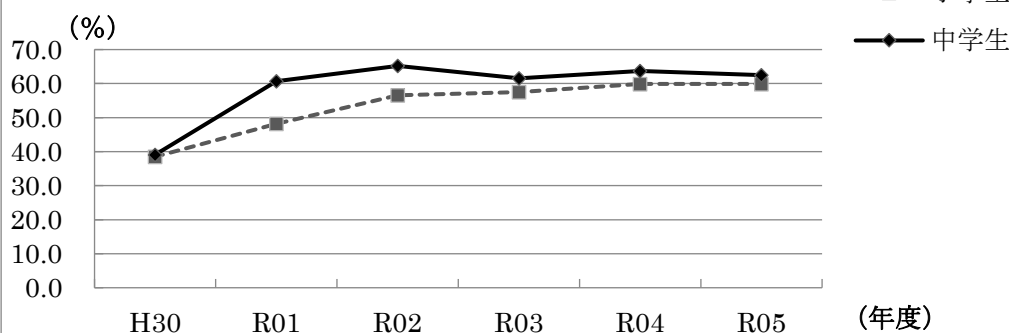
問3 学校から帰って来てからの1日の過ごし方(平日)について
～読書の時間について(マンガ、雑誌は含まない。)

- 1. 1 時間以上
- 2. 30 分以上 1 時間未満
- 3. 10 分以上 30 分未満
- 4. 10 分未満
- 5. 読まない

全体の傾向(平日)



《読まない割合》



【時間の目安】
読書は一日10分以上

【今年度の傾向】

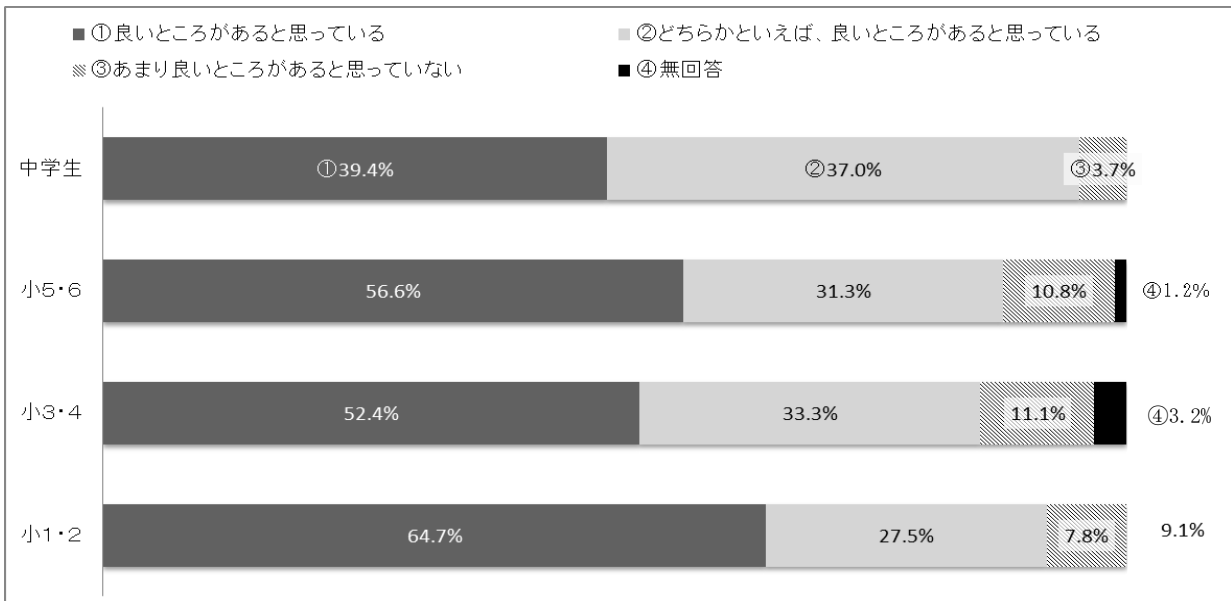
○「読まない割合」については、昨年度同様、小学校では約 60%、中学校では約 63%です。しかし、これまで増加傾向にあった読書離れですが、ここ 2～3 年は増加傾向にストップがかかっています。

○数年前からスマートフォンの所持率が高くなってきており、子供たちがインターネットやそれを使ったゲームなど読書以外の様々な機会に触れることが「読書離れ」の要因のひとつと考えられます。子供たちに、読書の良さを感じてもらうためには、家庭だけではなく、各学校の取組や地域の図書施設の充実を図り、子供たちが本に触れる機会を多くもつなど、周りの環境を整備していくことも大切です。

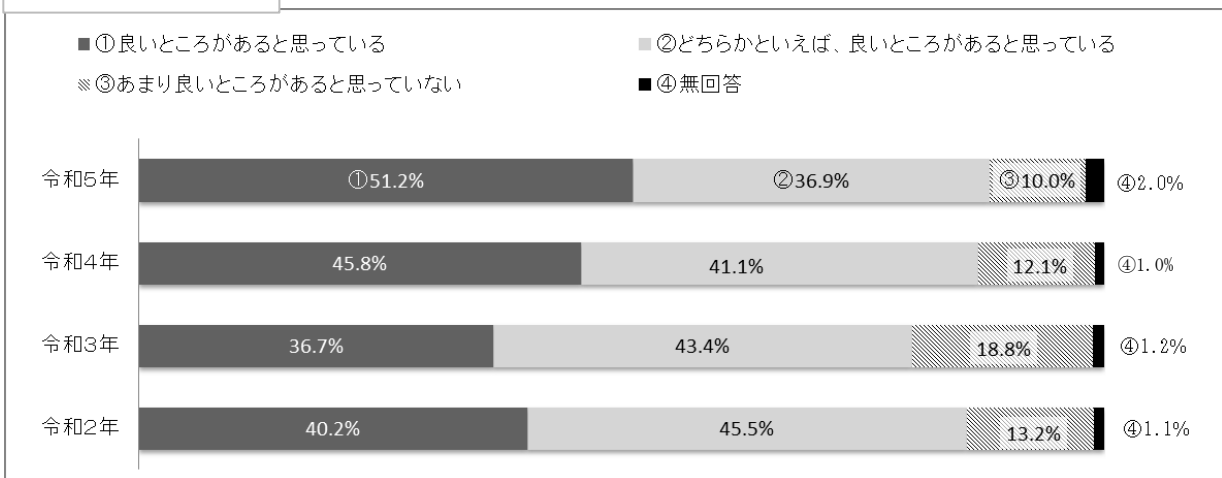
問4 お子さんは、自分には良いところがあると思っていますか。

1. 良いところがあると思っている。
2. どちらかといえば良いところがあると思っている。
3. あまり良いところがあると思っていない。

全体の傾向



4年間の傾向



自己有用感を高め、生き生きと！

自己有用感とは、自分が誰かの役に立っているという感覚で、第三者から自分の存在を価値として認められることで育まれます。自己有用感が高い人は、肯定的でチャレンジ精神があり、人に対して思いやりをもてるようになります。また、自己有用感が高いと自分自身を認めることができ、自己評価である自己肯定感を高めるにつなげることができます。自分自身に対していいことも悪いことも含めながら自分自身に肯定的な評価をもつことができるようになり、「生まれてきて良かった」「自分にはできることがある」と思えるようになります。この自尊感情が高くなると、学習意欲が高まったり、よりよい人間関係を築く原動力になったりします。



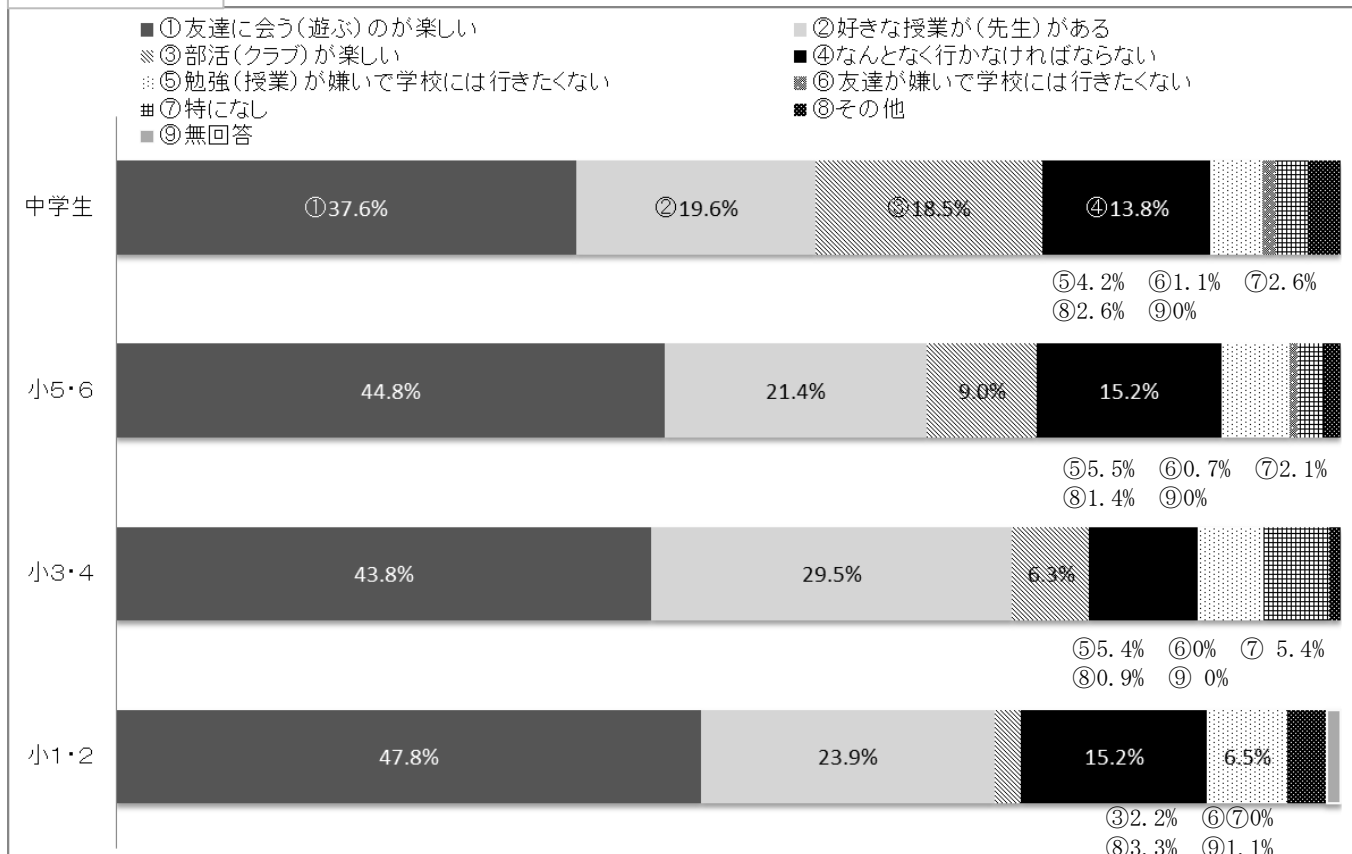
《子供の自己有用感を高める三つのポイント》

- 子どもの話をよく聞く～子供の考えや行動を否定せず、受け入れて認めることが大切。
 - 目標と役割を持たせる～子供が活躍できる体験の場を増やすことが大切。
 - できたことは、しっかりと認め、ほめる～行動や成果、目標に対して努力した過程を認めることが大切。
- ※引用：栃木県総合教育センター「高めよう、自己有用感」より

問5 学校生活について（複数回答可）

1. 友達に会う（遊ぶ）のが楽しい。
2. 好きな授業（先生）がある。
3. 部活（クラブ）が楽しい。
4. なんとなく行かなければならない。
5. 勉強（授業）が嫌で学校には行きたくない。
6. 友達が嫌で学校には行きたくない。
7. 特になし
8. その他（ ）

全体の傾向



【今年度の傾向】

○今年度も、すべての学年で「友達に会う（遊ぶ）のが楽しい」が第1位です。小学校では、昨年同様「好きな授業（先生）がある」が第2位ですが、中学校では「部活（クラブ）が楽しい」が第3位ながらも2位とは近い数値になっています。

○⑤「勉強（授業）が嫌い」⑥「友達が嫌いで学校に行きたくない」⑨その他に「教室が騒がしくて落ち着かない」などの回答が少数あります。各学校では、状況を慎重に把握しながら、個別・全体ともに適切な対応する必要があります。

こども基本法って？

令和5年4月、すべてのこどもが幸せな生活を送ることができる社会を目指して、その基本的な考えをはっきりとさせ、国や自治体、社会全体でこどもに関する取組「こども施策」を進めるために、この法律は作られました。こども施策は以下の6つの大切な考えを基に行われます。



1. すべてのこどもが大切にされ、基本的な人権が守られ、差別のないこと。
2. すべてのこどもが大事に育てられ、生活が守られ、平等な教育を受けられること。
3. すべてのこどもが、自分に直接関係することに意見を言え、様々な活動に参加できること。
4. こどもの今とこれからにとって最もよいことが優先されて考えられること。
5. 子育てしている家庭のサービスが十分に行われること。
6. 家庭や子育てに夢をもち、喜びを感じられる社会を作ること。

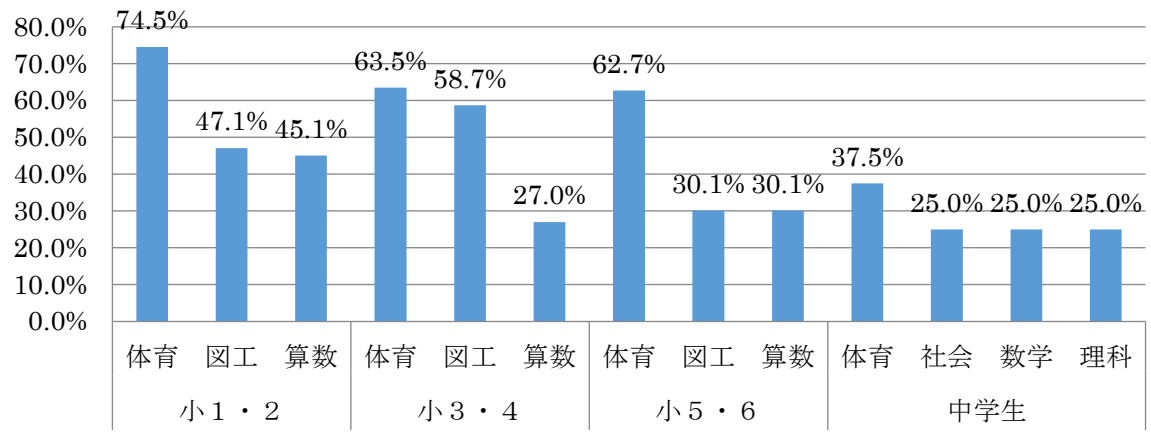
（※紙面の都合上、要約し内容を一部省略しています）

子供たちが安心して過ごせるよう社会全体で支え「こどもまん中社会」を実現するため、この法律が制定されました。この内容は大人も子供も知っておきましょう。

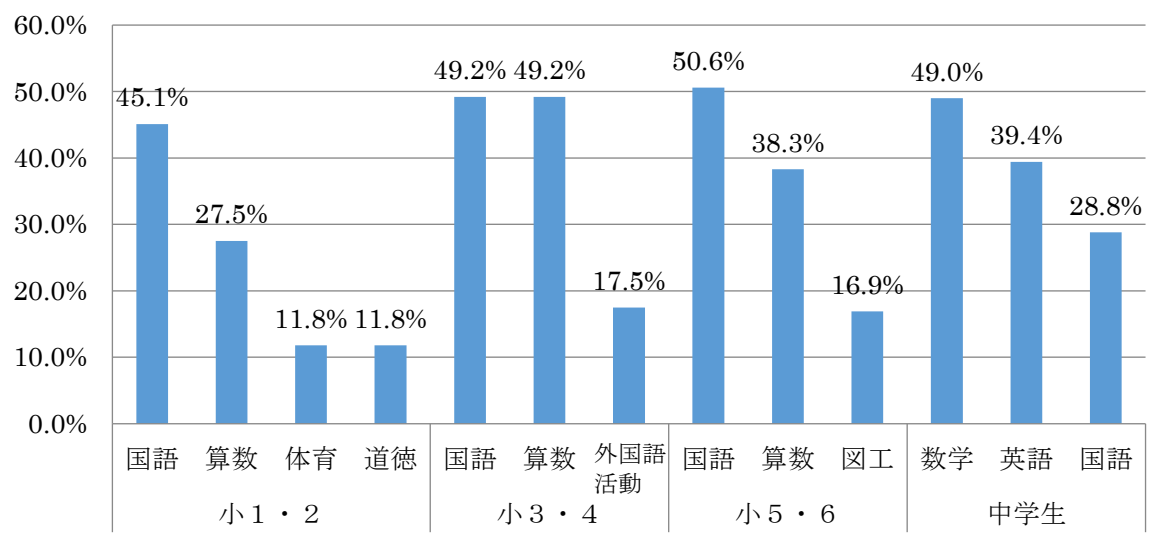
問7 お子さんの好きな教科、苦手な教科について、以下の13の学習から3教科まで選んでください

1. 国語 2. 社会 3. 算数・数学 4. 理科 5. 生活 6. 音楽 7. 図工・美術
8. 技術・家庭 9. 体育 10. 外国語活動・外国語・英語 11. 道徳 12. 学活 13. 総合

好きな教科（上位3教科）



苦手な教科（上位3教科）



【今年度の傾向】※上記のグラフは、提出したデータから上位にあたる3教科をグラフ化したものです。

○好きな教科

- ・どの学年も体育が一番高く、その割合はグラフの通りです。続いて、小学生では、図工、算数が多く、中学校でも数学は好きな教科の割合が高いです。また、グラフには表れていませんが、中学生でも美術は18.3%と高い数値でした。
- ・学年が進むにつれ、学習する教科が増えることもあり、好きな教科は分散していく傾向があります。
- ・中学生では、好きな教科の割合が学年によって差が出ている教科があります。(例: 社会1年15.9% 2年9.6%、理科1年7.2%、3年19%)これは、同じ教科でも学習の内容の違いが影響しているとも言えます。(社会: 地理的分野、歴史的分野など)

○苦手な教科

- ・国語、算数・数学を苦手としている児童生徒が多いことがわかります。
- ・外国語活動・外国語・英語は、グラフには表れていませんが、学年が進むにつれて、苦手な割合が多くなる傾向がありました。
- ・好きな教科では一番割合が高かった体育でも、苦手としている児童生徒は一定数いました。

幅広い学習から、自分の特性をみつけていこう

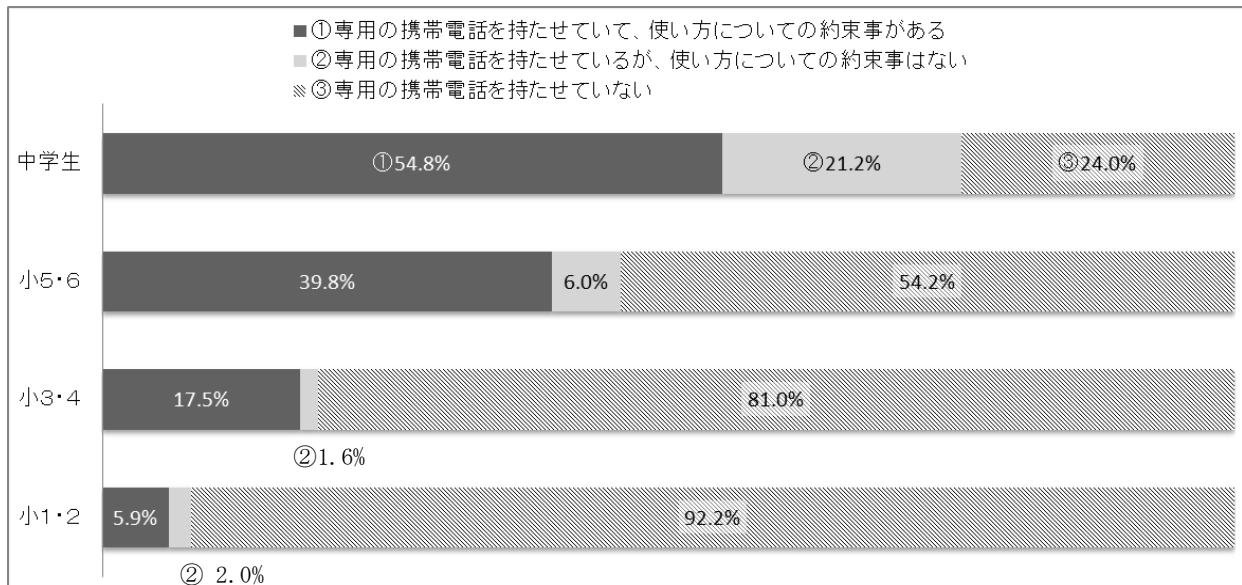


大人になって誰もが音楽家や画家になるわけではありませんが、知ることや感じることは、自分をつくる基になります。また、その学習によって、自分の特性がわかり、生涯にわたる生きがいや趣味になる場合があります。学習は、知識を身に付けるのはもちろんのこと、学ぶ過程で協働力や発表力を伸ばし、集団でのルールを身に付けるなど、将来の自分の仕事や生活に役立っていきます。ですから、子供たちにはどの教科にも前向きに取り組むよう伝えていきましょう。

問7 携帯電話（スマホ等を含む）の所持について

1. 専用の携帯電話を持たせていて、使い方についての約束事がある。
2. 専用の携帯電話を持たせているが、使い方についての約束事はない。
3. 専用の携帯電話を持たせていない。

全体の傾向



【小学生】 ※平成30年度からの変化を 全学年の合計で比べました。(単位-%)

	H30	R01	R02	R03	R04	R05
専用の携帯電話を持たせていて、使い方の約束事がある	12.6	12.4	14.6	19.8	26.5	23.9
専用の携帯電話を持たせているが、使い方の約束事がない	3.0	2.4	1.9	2.6	2.9	3.6
専用の携帯電話を持たせていない。	82.8	84.5	82.8	77.6	70.6	72.6
無回答	1.6	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0

【中学生】

	H30	R01	R02	R03	R04	R05
専用の携帯電話を持たせていて、使い方の約束事がある	47.1	48.5	48.8	50.0	57.5	54.8
専用の携帯電話を持たせているが、使い方の約束事がない	12.9	11.0	11.6	16.2	15.8	21.2
専用の携帯電話を持たせていない。	39.4	40.5	39.6	33.8	26.0	24.0
無回答	0.6	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7

【今年度の傾向】

- 携帯電話（スマホ等）を持っている割合は、中学生では、過去最高を更新しましたが、小学生においてはやや減少が見られました。しかし、6年間を見渡すと小中学生とも増加傾向にあることは変わりません。
- 小学生では、携帯電話を所持させている家庭の約86%の家庭が何らかの約束事を設けており、中学生では約72%の家庭が約束事を設けています。約束事の内容については、次ページをご覧ください。

※「1. 約束事がある」に○を付けた方のみお答えください。
具体的な約束事の内容として（複数回答可）

1. 時間についての約束
2. 使い方についての約束
3. 点検についての約束
4. その他

【小学生の約束事の事例】（文章記述より）

時間

- 1～3年・使用できる時刻を設定（17時、21時まで）
 - ・使用できる時間を設定（1日30分、1時間、2時間まで）
- 4～6年・使用できる時刻を設定（19時、20時、20時30分、21時、21時30分まで）
 - ・使用できる時間を設定（1日30分、1時間、3時間、ゲームを含め1日2時間）、必要最小限にする

使い方

- 1～3年・他人にアドレスや番号を教えない　・他人に貸さない　・親が許可したときのみ使用可　・検索はできないようにしている　・課金を禁止している
 - ・食事時には使用しない
- 4～6年・家庭内でのみ使用　・リビングで使用（自室に持ち込まない）　・外では使用しない、持ち出さない　・他人に貸さない　・電話、メッセージ、アラーム以外は使わない　・インターネットに制限をかけている　・制限をかけている　・LINEの使い方に注意をしている（悪口を書かない）　・SNS、YouTubeは見るだけ　・知らない人とつながらない　・自分がされて嫌なことはしない
 - ・課金しない　・勝手にアプリを入れない　・親の許可を取ってから使用する
 - ・食事時に使用しない　・自分のやるが終わってから使用する
 - ・親がチェックしていることを伝えている　・家族のみのやりとりとしている
 - ・LINEの使い方を注意し、相手の保護者が見ていることを伝えている

点検

- 1～3年・基本的に親が管理している　・親がいつでもみられるようにしている
 - ・許可したアプリのみ使用としている　・視聴履歴等を確認している
- 4～6年・親がいつでも見られる状態にしている　・定期的に親が確認する　・履歴などを確認している　・本人にいつ見るかを伝えずにチェックしている
 - ・保護者の携帯とペアリングしている　・アプリを勝手にダウンロードできないようにしている

その他

- 1～3年・戦争・暴力系、チャット系のゲームを禁止している
- 4～6年・妹と共有している　・親との連絡ツールとして使用している　・使える日と使えない日を決めている

※類似の意見はまとめて記載しています。提出していただいた文章は、内容を変えないよう一部文言を修正して記載している文章もあります。

【中学生の約束事の事例】（文章記述より）

時間

- ・使用できる時刻を設定（19時、20時、21時、22時、23時まで、21時から翌6時まで使えない）
- ・使用できる時間を設定（1日1時間、1時間30分、2時間まで使用可、勉強してから2～3時間）　・21～翌6時まで使用不可　・決めた時間内　・使って良い時間だけ

使い方

- ・リビングで使用可としている　・自室で使用しない　・就寝時は居間に置く
- ・アプリのインストールは親の許可を取ってから　・SNSに写真や動画を載せない
- ・SNSでつながるのは友人のみ　・SNSで友達とやりとりしない、発信しない
- ・投稿しない　・悪口を書かない　・見られて困るようなことはしない　・使うときは親に聞いてから　・相談せずに課金しない、買い物をしない　・やるべきことをやってから使用する　・知らない番号にはでない　・何にでもクリックしない
- ・むやみにインストールできないようフィルタリングをかけている

点検

- ・親はいつでも見ることができるようパスワードをかけない
- ・親はいつでもスマホを確認すると伝えている
- ・月に2~3回トラブルがないかチェックしている
- ・ラインの内容は場合によって確認している
- ・アプリについて管理している

その他

- ・自分のアドレスや番号を教えない
- ・知らない人と交流しない
- ・誰が見ても困らない使い方をする
- ・持っていることを伝えない

※類似の意見はまとめて記載しています。提出していただいた文章は、内容を変えないよう一部文言を修正して記載している文章もあります



スマホを使うための「18の約束」

2012年アメリカ マサチューセッツ州に住むお母さんが13歳の息子にiPhoneをプレゼントしました。iPhoneの箱にはお母さんが作った使用契約書が入っており、その内容は全世界で話題になりました。以下の内容は、お母さんの作った使用契約書です。その内容からは気づかされることが多くあります。そこで、その内容をご紹介します。

- ①これは私のiPhoneです。私が買って、あなたに貸しています。私って優しいでしょう。
- ②パスワードは常に私に報告してください。
- ③これは電話です。なったらマナーを守って必ず出てください。
- ④学校のある日は午後7時30分に、週末は午後9時に親にiPhoneを渡してください。
- ⑤学校に持って行ってはいけません。メールでやりとりする相手とは直接会話を楽しみなさい。会話は生きる上で大事なスキルです。
- ⑥もしトイレに落として破損、紛失した場合は、修理費用は自己負担です。
- ⑦嘘をついたり、人を馬鹿にしたりするためにこのテクノロジーを使ってはいけません。
- ⑧面と向かって言えないことをメールしてはいけません。
- ⑨友達の両親の前で言えないようなことをメールでしないこと。
- ⑩アダルトサイト禁止。情報は私の共有。知りたいことは私かパパに聞くこと。
- ⑪公共の場では電源を切るか、マナーモードにきなさい。
- ⑫他人のプライベートな写真を送ったり、受け取ったりしてはいけません。一度広まったら、解決するのはとても難しいです。
- ⑬膨大な数の写真やビデオを撮らないでください。すべてを記録する必要はありません。自分自身の体験を大切にきなさい。体験は永遠に残るものです。
- ⑭時にはiPhoneを家に置いて行きなさい。携帯は生き物でもあなたの一部でもありません。これなしでも暮らしていける器の大きい人物になりなさい。
- ⑮いい音楽をダウンロードして聴きなさい。視野を広げなさい。
- ⑯ワードゲームやパズル、知能ゲームで時々遊ばなさい。
- ⑰上を向いて歩きなさい。周囲の世界に目を向けてなさい。会話をしなさい。グーグルに頼らないで探し求めなさい。
- ⑱問題があるようならiPhoneを没収します。もう一度話し合い、始めからやり直しましょう。あなたと私は常に学んでいるチームメイトです。一緒に答えを出していきましょう。

これらの約束を守ってくれることを願っています。これらはiPhoneだけでなく、人生にも通じることです。あなたは早く変わり続ける世界の中で成長していきます。愛を込めて。 母より

(紙面の都合上、一部改および略)

スマホに関して、アメリカの家庭でも私たちと同じように、子供たちには良い使い方をしてもらいたいと願っていることがわかります。スマホの性能やすぐれた機能に疑いの余地はありませんが、その一方でさまざまな誘いに接する機会が増えることも事実です。子供たちが自分自身の成長に役立つ使い方するのは、それを買い与えた人の大事な役目です。スマホの所持や利用が子供たちのよりよい成長につながるよう前ページの各家庭の取組や上記の事項を参考にしてみてください。